

## 指定試験事業研究課題の事後評価結果について

### 1. 評価の概要

平成 17 年度に終了する指定試験事業の研究課題 55 課題を対象に事後評価を実施した。

### 2. 評価実施経過

平成 18 年 1～2 月に外部の学識経験者等により構成される研究課題評価分科会において評価を実施し、評価専門委員会において取りまとめを行った。

### 3. 評価結果

本年度に終了する 55 課題のうち、12 課題については予想以上の成果を上げており、39 課題についても当初の達成目標をほぼ達成した。4 課題については目的の達成は不十分であったと評価される。

(具体的な評価結果(案)及びそれに対する反映方針案は別紙参照)

指定試験事業 研究課題  
事後評価

課題名	評価結果	反映方針
水稲育種: 寒地中北部向け早生、高度耐冷性、良食味品種及び直播栽培適性品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
水稲育種: 寒冷地北部(青森、岩手北)及び中山間地向け高度耐冷性、良食味品種、及び直播適性品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
水稲育種: 寒冷地中部(岩手南部、宮城、福島)向け極良食味、耐冷性、いもち病抵抗性(マルチライン)品種の育成	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
水稲育種: 寒冷地南部向け極良食味、高品質及び多収品種の育成	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
水稲育種: 温暖地・暖地中山間地向けいもち病抵抗性良食味品種、酒米等加工適性品種の育成	目的の達成は不十分であった。	原因を解析し、今後の研究見直しに活用
水稲育種: 暖地の普通期栽培向け良食味多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
水稲育種: 温暖地及び暖地の早期栽培向け高温耐性、耐穂発芽性、極良食味多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
陸稲育種: 耐干性、高加工性、病害抵抗性、早生多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
小麦育種: 寒地向け秋播、高品質めん用安定多収品種の育成および寒地向け春播、高品質パン用安定多収品種の育成	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
小麦育種: 寒冷地南部及び温暖地北部向け早生、耐寒性、高品質めん用小麦品種の育成・大麦育種: 寒冷地南部及び温暖地北部向け早生、耐寒性、高品質食用大麦品種の育成	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
小麦育種: 温暖地東部の二毛作地域に適した早生、高品質、諸病害抵抗性を有する小麦品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
小麦育種: 温暖地多湿水田輪換畑向き、早生良質品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
二条大麦育種: 温暖地向け縞萎縮抵抗性、凍霜害抵抗性、ビール醸造用高品質品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
二条大麦育種(品質改善): ビール醸造用品質の検定、評価法の開発、ビール醸造用極高品質中間母本の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
二条大麦育種: 暖地向け病害複合抵抗性、耐湿性、ビール醸造用高品質品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
ばれいしょ育種: 寒地北東部向け耐冷性、病害・線虫抵抗性、でん粉及び加工食品原料用品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
ばれいしょ育種: 温暖地・暖地向け病害・線虫抵抗性、二期作調理用高品質多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
大豆育種: 寒地北東部向け耐冷性、線虫抵抗性、機械化適性、高品質、多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
大豆育種: 寒地中南部向け大粒・高品質、わい化病抵抗性、機械化適性、多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
大豆育種: 寒冷地南部及び温暖地北部向け高品質・大粒・病虫害複合抵抗性品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
小豆育種: 寒地・寒冷地向け高品質、耐冷性、病虫害抵抗性、機械化適性品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用

課題名	評価結果	反映方針
らっかせい育種:温暖地・暖地向け高品質・良食味品種の育成	目的の達成は不十分であった。	原因を解析し、今後の研究見直しに活用
さとうきび育種:南西諸島南部向け早期高糖性、耐干性、病虫害複合抵抗性、機械化適性、多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
こんにゃく育種:病害抵抗性、高品質、早期肥大性、機械化適性品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
いぐさ育種:高品質、病害抵抗性、機械化適性品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
そば等育種:温暖地、中部高冷地向け高品質、安定多収、機械化適性そば品種の育成、及び寒冷地向け高品質、複合病害抵抗性加工用トマト品種の育成	目的の達成は不十分であった。	原因を解析し、今後の研究見直しに活用
牧草育種:寒地・寒冷地向け安定多収チモシー品種の育成、及び、寒地向け採草用安定多収スムーズプロムグラス品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
牧草育種:温暖地向け耐寒・耐暑性、安定多収イタリアンライグラス品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
牧草育種:寒冷地・温暖地向け病害抵抗性、安定多収ペレニアルライグラス品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
牧草育種:暖地向け極短期・短期利用、病害抵抗性、安定多収イタリアンライグラス品種の育成	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
牧草育種:暖地向け採草用、高品質、安定多収ローズグラス品種の育成、及び、暖地向け放牧用、高品質、安定多収バヒアグラス品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
牧草育種:南西諸島・暖地向け、高品質、高採種性、安定多収ギニアグラス品種の育成、及び南西諸島・暖地向け、高品質ジャイアントスターグラス品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
とうもろこし育種:寒冷地・温暖地東部向け耐倒伏性、病害抵抗性、サイレージ用多収とうもろこし品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
ソルガム育種:寒冷地・温暖地東部向け高品質、病害抵抗性、青刈・サイレージ用安定多収ソルガム品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
ビワ育種:高品質・良食味、大果、早熟、病害抵抗性品種の育成	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
ぶどう育種:高品質、耐裂果性、病害抵抗性、醸造用多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
ぶどう育種:大粒・高品質、良食味、病害抵抗性、早熟、施設栽培用多収品種の育成	目的の達成は不十分であった。	原因を解析し、今後の研究見直しに活用
おうとう育種:高品質、高日持ち性、自家結実性等結実安定性、病害抵抗性生食用品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
パインアップル育種:高品質・良食味、無刺性、病害抵抗性、生食用多収品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
チューリップ育種:新規高品質、病害抵抗性、機械化適性、多収品種の育成	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
茶育種:温暖地北部・山間冷涼地向け耐寒・耐凍性高品質多収茶品種の育成	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
茶育種:暖地向け高品質、耐寒性、病虫害抵抗性品種の育成	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
緊急重要技術開発試験:ウメの生育不良の再現と樹勢回復技術の開発	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
緊急重要技術開発試験:アルファルファタコゾウムシの蔓延防止技術の開発	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
緊急重要技術開発試験:アリモドキゾウムシ等特殊病害虫の根絶技術の開発	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
持続型農業技術開発試験:土壌伝染性ウイルスの生物的制御技術の開発	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用

課題名	評価結果	反映方針
持続型農業技術開発試験:天敵等を利用したカイガラムシの環境保全型制御技術の開発	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
持続型農業技術開発試験:耕種的防除技術等を利用した昆虫伝搬性ウイルス制御技術の開発	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
持続型農業技術開発試験:亜熱帯地域における性フェロモン等を活用した安定生産技術の開発	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用
環境負荷物質の動態解明試験:寒冷寡照条件の草地酪農地帯における環境負荷の発生・移動予測と制御に関する研究	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
環境負荷物質の動態解明試験:閉鎖水系水田地帯における環境保全型農業技術の環境負荷評価と環境負荷物質低減技術の開発	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
環境負荷物質の動態解明試験:砂質浅耕土水田の輪換利用体系における環境負荷物質の制御に関する研究	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
環境負荷物質の動態解明試験:地形・地目連鎖(海岸砂地-水田低地-茶園台地)系を活用した環境負荷物質除去技術の開発に関する研究	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
環境負荷物質の動態解明試験:赤黄色土露地野菜地帯における環境負荷物質制御技術の開発	当初の目的をほぼ達成した。	今後の研究の推進に活用
環境負荷物質動態解明試験:南九州畑作地帯における環境負荷物質制御に関する研究	予想以上の成果をあげた。	今後の研究の推進に活用